

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700039		
法人名	株式会社 周南調剤		
事業所名	グループホーム 元気		
所在地	山口県下松市大字山田256番地		
自己評価作成日	平成24年12月3日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成24年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年秋に地域交流会を開催し、バザーや喫茶、ゲームなどで地域との連携や交流に努めています。また、誕生会やクリスマス会などに家族や友人を招いて一緒に楽しんでいただくとともに、職員と家族の連携や家族同士の交流を図っています。

利用者一人ひとりに合わせたレクリエーション(ボール遊び・カード遊び・塗り絵・編み物など)や活躍できる場面(調理・配膳・食器洗い・洗濯物干し・掃除・畑作りなど)を作り、いきいきとした生活が送れるように支援しています。

花の美しい季節や気候のいい時期には、おやつや弁当を持って近くの海や湖に出かけたり、月に1度は外食(回転寿司やレストランなど)をしたり、おやつに利用者といっしょにホットプレートでたき焼きを作ったり、敷地内の畑でとれたトマトやピーマンを使ってピザを作ったりして楽しんでます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所主催の「地域交流会」では、地域の人の協力を得て1200枚のチラシを配布され、当日は小学生の太鼓や地域住民によるフリーマーケットの参加、ゲームや喫茶などで利用者、家族の方も一緒に地域の人との交流を楽しんでおられます。地域の出初式や敬老会、公民館行事等に来賓として施設長が招待される他、散歩や買い物時に声をかけてもらったり、隣家の花嫁さんの出立を見送るなど、日常的に地域の一人として交流しておられます。入浴は毎日10時30分から15時まで、利用者の希望にそっていつでもできるように支援しておられ、入浴を好まない利用者には、声かけの工夫や職員を代えたり、待ったり、入浴スタンプを押して景品交換をされるなど工夫して、利用者一人ひとりにあった入浴サービスを提供され、入浴が楽しめるように支援しておられます。感染症対策(ノロウイルス)では、看護師である主任が経験を活かして、発生予防から蔓延防止策まで徹底した対処方法を検討され、一目でわかる具体的なマニュアルを整備され、応急手当や初期対応の定期的な訓練を行っておられ、職員は実践力を身につけておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、利用者の尊厳を大切にしながらその人らしい生活を支援していく。月1回のミーティングで理念の確認をして全員で共有し、実践できるように努めている。	地域密着サービスの意義をふまえた「その人らしく 尊厳を尊重 安全安心 技術の向上 愛のある介護 地域と協力」という事業所独自の理念を全職員で作ri、月一回開催するミーティングで唱和し、話し合い確認して、共有し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に声をかけ合っており、行事の際は互いに協力している。地域の行事に来賓として招かれており、地域交流会には地元の小学生による太鼓の演奏、地域住民によるフリーマーケットがある。火災発生時の避難訓練に地元住民も参加している。	地域の出初式や敬老会、公民館等の行事に来賓として招待があり、施設長が出席している。事業所主催の「地域交流会」のチラシを地域の人の協力を得て1200枚配布し、当日は小学生の太鼓や地域住民によるフリーマーケットの参加もあり、ゲームやバザー等で利用者、家族共に多くの地域の人と交流している。散歩や買い物時に声をかけてもらったり、花や野菜の差し入れ、隣家の花嫁の出立ちを見送るなど日常的に交流している。ボランティア(歌、フラメンコ、フラダンス等)の来訪があり交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の体験学習、地域ボランティアなどの訪問があり、利用者と交流している。介護福祉学生の実習の受け入れ等を通じて地域の暮らしの向上に努めている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年の外部評価の結果を活かして改善内容を検討し、具体的な改善に取り組んでいる。ミーティングでサービス評価についてその意義を話し合い、サービス向上に向けて意識づけを行なっている。	評価の意義を理解して、職員全員で自己評価に取り組んでいる。一人ひとりが取り組むことで各項目の理解が深まり、サービス向上や前回(平成23年度)の課題であった「初期対応の定期的な訓練」や防災マニュアルの整備」「手すりの位置の改善」等について、具体的な改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。運営推進会議で活動報告、行事報告とともに、外部評価の結果について報告をしている。各委員も積極的に発言され、意見をもとに改善を図っている。	地区社協会長・民生委員・児童育成団体・家族代表・地域包括支援センター・市担当課等のメンバーで、2か月に一回実施している。利用者の状況、活動報告、外部評価結果等の報告をし、テーマを決めて意見交換している。地域行事の紹介や事業所行事への協力、ボランティアの紹介など、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは、利用状況等について報告を行い、事業所の実情やケアサービスの取り組みを必要に応じて相談して協力体制を築いている。運営推進会議にも毎回参加していただき、アドバイスをいただいている。	市担当課や地域包括支援センターとは、運営推進会議時に話し合ったり、直接出向いて相談し、助言を得るなど、協力関係を築くよう努めている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修し職員で話し合っている。1階に下りる階段は危険防止のため施錠しているが、エレベーターと1階玄関は施錠していない。利用者が不穏になったときも、できるだけ薬を使わずに落ち着くことができるように職員が関わっている。	身体拘束廃止に関するマニュアルがあり、ミーティング時に研修し、全職員が理解して、身体拘束をしないケアに努めている。スピーチロックについては管理者が指導している。玄関は施錠せず、外出を察知したときは一緒に出かけるなど、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が行われていないか注意を払うとともに、虐待防止については勉強会をもち、職員間で意識の向上を図っている。高齢者の尊厳遵守について、研修等で理解を深めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護や成年後見制度について施設内で研修を行なっている。必要と思われる人には社会福祉士に相談したり、これらを活用するように包括支援センターと連携し支援している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約および解約時において、文書にもとづき利用者、家族等に説明し理解と同意を求めている。重度化や看取りについての対応、医療連携体制について説明し、利用者およびご家族の意向を伺っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開催し意見交換を行なっている。苦情投書箱の活用もお願いしている。さらに、面会の際や随時の連絡などで家族の話を積極的に聞き取り、カンファレンスで検討し日々のケアに反映させている。	契約時に、苦情相談の受け付け体制や処理手続き等を家族に説明している。苦情投書箱や家族へのアンケート、年2回の家族会、運営推進会議、面会時に意見や要望を聞いている。出された意見を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングに施設長が参加しており、議題によっては随時運営者も参加する。運営者、施設長、職員ともに日常的に意見を言いやすい環境があり、状況によって運営者は柔軟に対応している。	毎月のミーティングに運営者や施設長が参加し、職員の意見を聞く機会を設ける他、、管理者は日々の業務の中で職員の意見を聞いている。運営者、施設長、管理者、主任等が参加する定例の食事会で意見交換し、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は頻繁に現場を訪れ、職員の話をよく聞き、状況を把握している。職員の努力や実績を評価し、給与や賞与に反映させている。年休消化に努めるとともに職員の体調の悪い時は随時勤務を調整している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回行うミーティングで内部研修を実施し、また外部研修へも積極的に参加している。資格取得への協力体制、資格手当等、スキルアップにつなげるよう取り組んでいる。	外部研修は情報を職員に伝え、経験や段階、希望に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は職員が共有できるようミーティング時に伝達研修を行っている。内部研修は、「認知症」「褥瘡」「ノロウイルス」「救急救命法」「権利擁護」等のテーマを決めて、職員が講師となり、毎月実施するなど、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡会は、2ヶ月に1回各施設持ち回りで情報交換を行っており、日々のサービスに活かしている。また、県の協議会にも入会し、会議に参加している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問し、利用者の困っていることや不安なことに耳を傾け、不安を軽減するとともに信頼関係をつくるよう努めている。また入居後の生活の場を見学し、利用者が納得し少しでも不安が解消できるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に生活歴についてお伺いする機会を持ち、利用者と家族の関係把握に努めるとともに、今後の要望についてお伺いしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に受けているサービスがあればその担当者、入院中であればSW等、関係機関からの情報収集をしている。また利用者及び家族の要望をもとに可能な限り柔軟な対応を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に、食事の盛り付け、食器を洗う、掃除を手伝う、洗濯物を干したりたたんだり、生活の場で活躍していただいている。職員は感謝の気持ちを伝えて、共に支えあう関係作りをしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が気軽に来やすい雰囲気づくりをしている。 日頃の様子を家族に報告・相談し、協力していただいている。家族と職員が一緒に悩み考えながら、共に利用者を支えあう関係づくりを心がけている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人に年賀状や暑中見舞いを書く、誕生会や祭りに招待するなど、友人が気軽に面会に来れるようにしている。 正月には近所の神社に初詣に出かけている。	家族や友人、知人を誕生会や祭りに招待する他、年賀状や暑中見舞いの交換など、家族や友人、知人が来訪できるように支援している。買い物、葬式や結婚式への参加、墓参り、神社の初詣など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で話をしたり、助け合ったりしている。職員は、利用者同士の会話が弾むよう、相性を考慮したグループ分けや席順等を配慮している。トラブルの際は雰囲気や和ませるよう働きかけをしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により解約になっても、必要に応じて関係機関を含めて利用者や家族と関わりをもっている。住み替えになった場合、本人の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫等の情報を文書や口頭で詳しく伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の言葉を個人記録に言葉のまま書きとめたり、昔の写真を見て話をし、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は利用者の表情から気持ちを汲み取り、または家族から聞き取り、職員で話し合っている。	入居時の介護基本情報やセンター方式の活用その他、日々の関わりの中での言葉や様子をそのまま介護記録に記録して、共有し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、今まで担当したケアマネジャーなどから生活歴について情報を得たり、さらに面会時に家族から話を聞くなど積極的に情報収集に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報にとらわれず、できること、わかる力を本人の生活から感じ取り、本人の全体像を把握するよう努めている。個々にできることに注目し、役割を持って過ごしていただけるように工夫して支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族の希望を聞き、介護計画を作成している。その人らしく暮らしていただくために、楽しみとなることを見つけるよう努めている。状態に変化があったときは介護計画の見直しを行い、職員間で情報共有するよう努めている。	利用者を担当する職員、計画作成担当者を中心に、毎月1回カンファレンスを行い、利用者や家族の希望、主治医の意見を聞き、介護計画を作成している。6か月毎にモニタリングを行い見直しをする他、本人の状態や状況に変化があれば、その都度見直しを行い、現状に合った介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の様子やケアの実践について個別にファイルを作り記録している。状態に変化があったときは随時カンファレンスを持ち、ケアの具体的方法を検討するとともに介護計画を見直ししている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関と連携をとり、受診や入院の回避、早期退院の支援、重度化した場合や終末期の入院の回避など本人や家族の意向をもとに柔軟に対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民によるボランティア(歌、朗読、フラダンスなど)やミュージックセラピーなど心豊かな生活が送れるよう支援している。 気候の良い時期には海や湖までドライブしたり、また月に1度はランチに出かけている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じてサマリーや血圧の記録を届けている。体調不良時には主治医と連絡を取り、状態報告し受診に同行したり往診を依頼している。 受診に同行したときは電話で家族に経過報告をしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医や協力医療機関をかかりつけ医とし、家族の協力を得て受診の支援をしている。緊急時の対応や情報提供などをし、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、体調不良やバイタルサインに異常があるときは看護師に報告している。夜間においても、看護職と連携を取り対応しており、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、サマリーにて情報提供を行っている。入院中は病院のSWや家族から情報を得て早期退院ができるように努めている。また、職員がこまめに面会に行くことで利用者の不安軽減やタイムリーな情報収集ができています。退院時、家族と一緒に医師の説明を聞き、調整に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、家族会で話し合うとともに、本人および家族の思いを確認し、看護師が家族、主治医と連携をとり看取りについて相談、具体的な打ち合わせを行っている。	「状態悪化における事前要望書」「終末期の意向確認書」があり、入居時に事業所の方針を家族に説明している。重度化した場合は、本人や家族の意向を踏まえたうえで、かかりつけ医や関係者と相談し、医療機関の移設も含め支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	転倒、誤薬、行方不明、火災発生時の事故防止などの研修を行い、対応マニュアルを作成し施設内に掲示している。また、リスクマネジメントのハード面(施設設備など)での改善について職員に気づきを募り、設備の改善を図っている。初期対応については全職員が救命講習を受けている。	ヒヤリハット報告書、事故報告書に記録し、ミーティングで検討して、共有し、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。緊急時対応マニュアルがあり、消防署による救急救命法、AED使用方法の研修を全職員が受講している。内部研修では応急手当や初期対応の実践的訓練を実施し、全職員に実践力が身につくように取り組んでいる。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民も参加して、昼間と夜間を想定した火災時の避難訓練を年2回実施している。地震発生時の対応マニュアルを作成し、ミーティングで職員召集や連絡網、緊急避難場所の確認等を行なっている。	年2回利用者と一緒に、火災を想定した避難、通報、消火訓練(夜間想定を含む)を消防署の協力を得て実施している。訓練には地域住民が参加し、年1回防災の日にはは備蓄している20人分3日分の非常食を運営推進会議のメンバー等と共に試食し、災害対策への意識を高めている。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調等が利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねないよう配慮している。	内部研修で学習し、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉づかいや対応に努めている。不適切な言葉や対応があれば主任が指導している。利用者の個人情報取り扱いに注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や願いを表情や全身の反応をくみ取りながら、本人の希望や好みを把握するよう努めている。利用者が自己決定できるよう促すとともに、自由な思いを表出できるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者の「思い」を重視している。行事や外出の際、体調や気分によって参加が難しいときは、無理強いせず、ご希望にそった過ごし方をいただいている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を月に1度依頼している。希望されるかたには毛染めも行なっている。フォーマルな場(葬儀など)に行くときは職員がメイクアップをしている。服装については利用者の「思い」を重視し可能な限りそれを支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が旬の食材を取り入れた献立を作っている。朝食は職員が調理しており、昼夕は厨房で調理された料理が配食されている。盛り付けや配膳、片付けを利用者とともにやっている。時には昼食やおやつを利用者といっしょに作っている。	昼食、夕食の副食は法人厨房からの配食で、朝食とご飯は事業所内で作っている。利用者は盛り付けや台拭き、配膳、下膳、食器洗いなどできることをしている。地域からの季節野菜の差し入れや事業所菜園で採れた野菜を使って、月1回の昼食づくりをしている。おやつづくり(たこ焼き、お好み焼き、ケーキ等)、外食や戸外での弁当など、楽しい食事となるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士を配置し、栄養バランスのとれた献立で対応している。軟菜・きざみ・ミキサーと利用者個々が食べやすい食事形態で提供し、必要に応じて食事量・水分量をチェックしている。利用者の状態に合わせて食事の時間を調整している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には声掛け・誘導を行い、できない方にはご本人の状態に応じた口腔ケアを行っている。また、歯ブラシ・義歯ケースなどの洗浄・消毒・保管の支援も行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。失敗してしまった場合も、極力本人が傷つかないように手早く処理し、周囲に気づかれない等の配慮をしている。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、プライバシーに配慮した、1人ひとりにあった排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食物や水分摂取を心がけ、トイレに行くタイミングをはかる、いきみの姿勢など工夫している。それでも排便困難のときは、内服薬で調整している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前中に入浴することが多いが、午後も対応している。入浴を拒否される場合は、無理強いせず、タイミングをみて再度声かけするか、他の職員がお誘いしてみるなどチームで協力している。発熱など、状態によっては清拭・足浴で対応することもある。	入浴は毎日、10時30分から15時までの間に、利用者の希望にそっていつでもできるように支援している。入浴をしたくない人には、声かけの工夫や職員を代えたり、待ったり、入浴スタンプを押して景品交換をするなど工夫している。体調などで入浴できない場合は清拭や足浴を行うなど、個々に応じた入浴支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の個別の疲れ具合に応じて、自由に休息を取っていただいている。 居室の温度・湿度に配慮し、エアコンや加湿器の管理をしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイリングし、常時確認できるようにしている。看護師が利用者の内服薬の管理を行っており、必要に応じて、医師や薬剤師とも連携を取っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に、洗濯物を干す、掃除、料理、配膳、食事の後片付けなど得意分野でお願いできそうな仕事を頼んでいる。職員は感謝の気持ちを伝えている。	テレビやビデオの視聴、新聞を読む、歌を歌う、ぬり絵、習字、アロマセラピー、ドッグセラピー、ミュージックセラピー、食事の準備や後片付け、掃除、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、畑づくり、野菜の収穫など、利用者一人ひとりの活躍できる場面づくり、楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の散歩や花見、もみじ狩りなど季節ごとのドライブや事業所周辺の散歩・買い物と戸外に出かけている。気候のいいときは弁当を作って屋外で昼食を摂っている。近くのレストランで外食(ランチ)を月1回企画している。	散歩や買い物、季節の花見(桜、コスモス、紅葉など)、ドライブ(滝の口公園、緑地公園、米泉湖等)に出かける他、神社への初詣や地域行事への参加、外食等に出かけたり、家族の協力を得て動物園に出かけるなど、一人ひとりの希望にそって外出の支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる人はお金を所持している。職員が預かるときは、個別に用途や残高を記録している。買い物に行くときは本人がお金を支払うよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望されるときは、自ら電話ができるように支援している。使い慣れた携帯電話を持参している利用者もいる。家族や友人に年賀状や暑中見舞いを出す援助もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は居心地のよい環境作りに心がけている。換気や消臭については常に配慮し、また温度計湿度計を置き、居心地よい温度調節に心がけている。 リラックス効果を期待して、音楽や香りを楽しむこともある。	ゆったりした共用空間は採光に優れ、広い窓からは戸外が見渡せ、季節を感じることができ、台所からご飯を炊くにおいがしている。室内には季節の花や季節感のある装飾品、人形等を飾り、テレビの前には大きなソファがあり、利用者同士で話したり、テレビを視るなどゆったりと過ごせるようになっている。3台の加湿器を配置し、室内の温度や湿度、換気に配慮して居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりが思い思いに過ごせるように、ソファやテーブルの配置を考え、また利用者同士の関係性に配慮し、居心地の良い場所の提供を工夫している。廊下の一部に、一人になれるスペースを作っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋に洗面台が設置してある。利用者はタンスやカーテン、テレビ等を搬入し、花を飾ったり家族の写真を置いたりしてその人らしく安心して過ごせる居室となっている。	カーテン、箆簞、小机、椅子、洋服掛け、テレビ、加湿器等利用者の使い慣れたものを持ち込み、家族の写真等を飾り、安心感を持って過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、居室のベッドの位置を工夫したり、浴室、脱衣所に手すりを増設したり、トイレトペーパーホルダーの位置を変えたり、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容